

cumre REPORT

クムレレポート 2021



ごあいさつ

社会福祉法人クムレ
理事長 財前民男



ごちゃまぜから ONE TEAM ワンチームへ

コロナ禍の中、クムレは「ともに育ちともに生きる」理念の実現へ向け、一步一步、着実に前進しています。世界中で大流行している新型コロナウイルス感染症に対して有効な治療薬もなく、支援を必要としている人達へ3密を避け、マスク・手洗い・消毒等で対策を講じながら支援を続けているクムレの全職員を誇りに思います。

ワクチン接種も始まり、コロナとの闘いは次第に収束へ向かっていくものと思いますが、少なくとも今年1年はしっかりと対策を継続していく必要があります。

さて、2021年度はクムレ重点事業として2つ掲げています。

1つ目は、岡山市北区に開設する重度障がい者の暮らしの場となるグループホームと、通いの場となる児童・成人期のデイサービスです。公募により、「おうちだ」という名称に決定いたしました。あたたかな雰囲気となるようスペイン調の外観をイメージし、岡山市大内田の地域で共に暮らす「おうち」となるよう、着々と準備を進めています。

2つ目は、昨年倉敷市連島地区に開園した小さくら第二保育園を活用しての、子ども・家庭を支える事業です。現在はもとより、近い将来に起こることを想定しながら、長時間保育（夜間保育）の機能をもつ小さくら第二保育園の地である連島エリアを拠点に、地域の各家庭において複雑化・複合化した諸問題や、制度の狭間にあるニーズに対応する居場所やネットワーク（自立に向けて衣食住+就労を支える）を、地域住民のみなさんと一緒につくり、エリアを多機能化（泊り、通い、訪問・アウトリーチ）していきます。

2つの事業に共通しているのは、福祉サービスを提供する側と受ける側と分けるのではなく、支援を必要とする人達を中心として家族・支援者とさらに地域の人達も一緒にになって、居心地の良い地域を創り出していくことういうものです。従来の縦割り型の支援を“ごちゃまぜ”にして包み込み、福祉サービスを必要としている人を支え合い、安心して暮らせる新しい街づくりに取り組んでいくことだと考えます。地域共生社会の実現を目指して、国も様々な提案を試みていますが、この2つの事業はこれを具体化するものとなります。

そして、重点事業を推進していく上で最も重要なのが、クムレの理念を実現する意欲に燃えた人財の育成です。現在、日本経営品質賞にチャレンジしており、昨年は全事業所の「ありたい姿」の具体化に取り組みました。本年度は全職員がクムレ人としてのありたい姿を想い描き、見える化・分かる化・出来る化を実践しながら、水島と倉敷の2つの拠点がONE TEAMとなってステップアップできる年となるように取り組んでまいります。

本年度も、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願ひいたします。

2020年度 事業報告

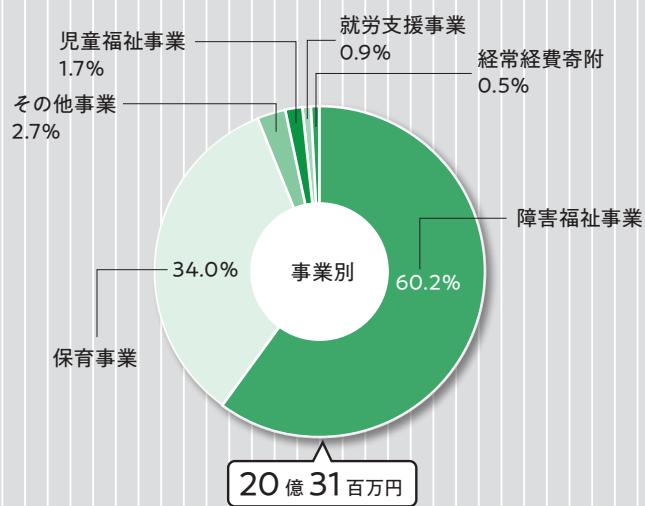
- ▷ サービス活動収益（売上高）は前年度より4.7%增收で、初めて20億円を突破
- ▷ 小ざくら乳児保育園の新園舎建設で支出の割合が膨らむ
- ▷ 新型コロナウィルス感染症などの感染症や自然災害などに対する環境整備

内閣府の令和3年3月の月例経済報告では「景気は、新型コロナウィルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。」とあります。こうした状況のなか、当法人のサービス活動収益（売上高）は、前年度比4.7%增收の20億3,100万円となりました。

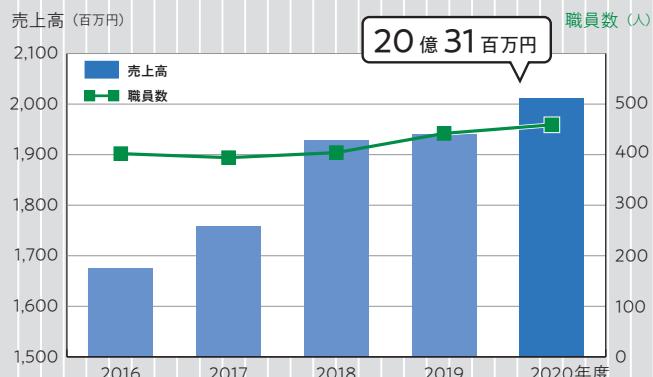
また、コロナ禍が起爆剤となり、ICTの活用が加速しています。例えば、実践発表や法人説明会などはZoomを使用したオンライン開催となりました。現場でもケアコラボの導入等により職員の負担軽減を図っています。

さらに、新型コロナウィルス感染症のように新たな感染症リスクに対しては、入所施設のユニット化などの整備や令和2年11月完成の小ざくら乳児保育園新園舎をはじめとした避難所としての環境整備に取り組んでいます。

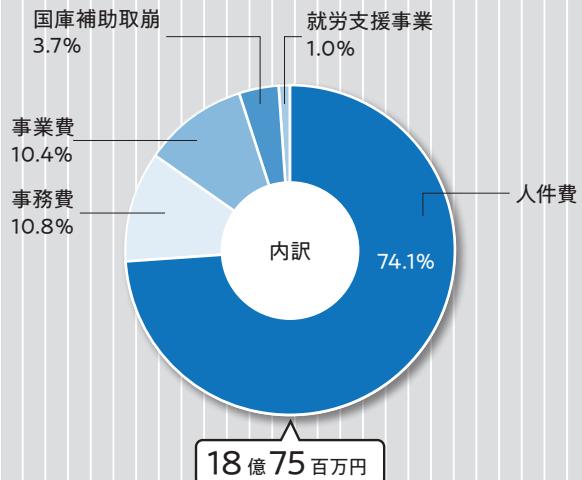
法人収入



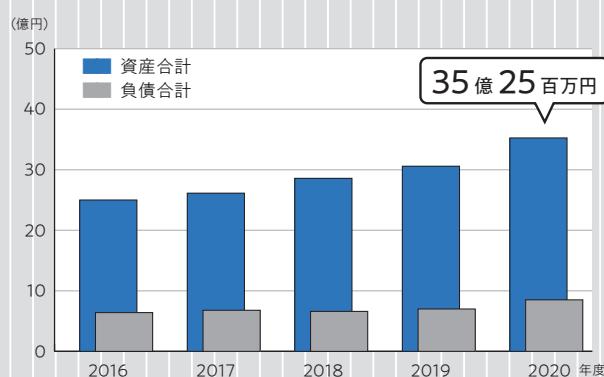
事業活動収入と職員数



法人支出



資産合計／負債合計



独自に実施する社会貢献活動

事業	金額(円)
子育て支援・発達支援教室	409,982
障がい児・者 SNS相談事業	350,000
避難所としての環境整備	338,936
移動図書館・移動パントリー	300,505
子ども食堂（ひだまりカフェ）	148,026
高齢者健康促進（オレンジカフェ）	135,527
引きこもり支援	94,141

クムレでは制度外の地域に向けた取り組みを、様々に展開しています。
上記はその一部です。

倉敷 抱点事業報告

2020年は、新型コロナウイルスの感染拡大で、倉敷拠点内でもハレ（祭礼や年中行事）に関わる動きが止まり、行事やイベントが軒並み中止や縮小化しました。改めてケ（日常）の大切さに気付かされた年でした。

1. 健康とICT活用

健康状態の把握管理・換気・手洗い・使用物品の消毒の徹底等を確実に実施することで、インフルエンザや感染症の罹患者がほとんど表出化されず、登園率や利用率は前年度対比102%でした。新しい生活様式に取り組むべく、日課の中でマスクの着用の練習に取り組んでいます。自閉症のある方にとってマスク着用は困難を伴いますが皮膚感覚に配慮したマスクの御寄附や環境を整えることでマスク着用ができ始めた利用者も多くいます。昨年度の緊急事態宣言発出後は、「支援を止めるな」との熱い思いからYouTubeを活用した活動の様子を発信しました。あしたばや共同生活援助事業所クムレにおいては、感染症リスクの軽減のため外泊は中止とし、Zoomを活用したご家族との面談の実施で離れていても元気に生活している入所生活を伝えることができました。



ICT（ケアコラボ）を活用し利用者中心でその方の人生や生活に着目した記録をご家族の方と一緒にシェアすることにも取組み始めました。写真や動画を介するこのケアコラボは支援の見える化に役立っています。

2. ケのハレ

倉敷拠点は生活カテゴリーで利用者の生活を話し合うカテゴリーミーティングの場があります。利用者が住む地域や障害領域や障害のあるなし、年齢に関わらず人が生きるうえでの共通項（倉敷拠点ではカテゴリーと定義付けをしている育・働・暮・つなぐ）で話し合いをしています。日常生活を送る中でハレは大切です。



コロナ禍でハレの行事をケに汎化させることは可能なのか、カテゴリーーやカテゴリーを越えて日課活動の中でできることを見直してきました。

毎年私たちは、種から苗を育て、稻刈りをし、おいしいクムレ米を作ります。刈った稻でお飾り作りをし、とんど焼きで燃やし無病息災を願います。昨年度も取り組むことができました。地域の方々とともに毎年行っていたバーベキューや三世代交流のお飾り作りはできなかっただけれど…。

当たり前に行っていた栗の家のイベントや赤提灯はできなくなりましたが、人々の生活に必須となったマスク作りの場が始まりました。生きづらさを感じている方々が、個別や少人数で活動し人の役に立っていることを実感し社会参加にもつながっています。困ったことの相談に留まらず、その方々が持つ強みや得意なこと、アロマ調合（プロ並み！）、美容師、写真家等々、地域の中で活躍や参加ができる場、喜んでくれる人がいる場につないでいきました。

3. 大切にしたい支援観

法人が大切にしている支援観「自立（自律）・尊厳・ハビリテーション」に基づいた支援は、施設の中で完結していた支援とどう違うのでしょうか？



大切にしたい支援観に基づいた支援を実践していくことで利用者や地域はどのように変化があるのか経験学習モデルを活用し利用児者のありたい姿（成果）の道筋をカテゴリーミーティングで考えました。

昨年度は他にもランクアップ認証での振り返りの過程、重度グループホームプロジェクトと多くの議論する場を持ち支援観を共有化していました。





水島拠点事業報告

歴史を重ね、新たなスタートの年となりました。

1. 小ざくら乳児保育園の新園舎が完成しました !!

令和元年12月から始まった建て替え工事も終了し、令和2年11月28日、無事に竣工式を迎え、新園舎での新しい生活がスタートしました。

1階には大きなホールが、2階には広いテラスもあり、子ども達は毎日楽しく遊んでいます。
3階には地域交流スペース・憩いのガーデンがあります。地域の方の憩いの場となれば良いなど考えています。また、災害時には地域の方も垂直避難できるように整備しています。



園庭のイチョウの木は樹齢60年。
子ども達を見守ってくれています。

2. 「パントリー（学用品・日用品のリサイクル）」を開催しました

地域の皆さんからご寄附頂いた学用品・部活用品を必要な方にお譲りする「パントリー」。地域の支え手を増やし、住民同士の「たすけあい・支え合い・分かち合い」に基づく「地域づくり」を目指した活動です。必要な家庭に、必要なものが届き、経済的負担の軽減とともに、子どもに物を大切にする感性を育むことも大切にしています。



3. 「食で繋がる支え合いの輪」の活動に参画しました

コロナ禍の影響を受ける子育て家庭にお腹いっぱい食べてほしい、食を介した繋がりの温かさを感じてほしい…そんな思いから、財界有志の方が立ち上げた「子どもの食緊急支援プロジェクト」、大和ハウス倉敷営業所さんからのご厚意を受けた、「お弁当配布企画」に参画し、食材の配布活動を実施しました。

法人内外の関係機関や民間団体、有志の地域住民と力を出し合い、物資を必要とする子育て家庭に、より広く届けることで、地域の子育て家庭支援、ニーズのある世帯との繋がり作り、地域の支援機関との協働が見える形となりました。



4. 「オレンジリボン＆パープルリボン啓発」を行いました

「にじいろカフェ」に、私たちもブースを設け、子ども虐待防止（オレンジリボン）、女性に対する暴力根絶（パープルリボン）の啓発活動を行いました！（助成 公益財団法人 資生堂社会福祉事業財団）

有志の地域の方々と一緒に啓発グッズの配布や声掛けを行い、困った時や心配な時の相談先として、スタッフの顔、頼りになる地域の方を知ってもらう機会ともなりました。



5. 絵本や児童書をプレゼントする企画を実施しました

親子のコミュニケーションや本に触れるきっかけ、コロナ禍での負担の軽減を目的に、NPO法人チャリティーサンタ様から譲っていたいただいた絵本や児童書をプレゼントする企画を実施しました。『子どもが目をキラキラさせながら楽しんでいた』『ふれあいの時間を持つことができた』『日頃本を購入しないので、とてもいい機会でした』などの心あたたまるエピソードや本を寄附してくださった方へのメッセージが数多く届いています。今後も、子育て家庭の喜びに繋がる機会を作りたいです。



2020年度 決算報告書

(単位：円)

貸借対照表

資産の部	
科目	決算額
流動資産	1,023,974,142
固定資産	2,501,996,735
(基本財産)	(1,950,749,906)
(その他固定資産)	(551,246,829)
資産の部合計	3,525,970,877

負債の部	
科目	決算額
流動負債	261,615,615
固定負債	589,679,214
負債の部合計	851,294,829
基本金	166,111,041
国庫補助積立金	541,727,522
その他の積立金	189,000,000
次期繰越活動増減差額	1,777,837,485
(うち当期活動増減差額)	140,425,800
純資産の部合計	2,674,676,048
負債及び純資産の部合計	3,525,970,877

資金収支計算書及び事業活動計算書

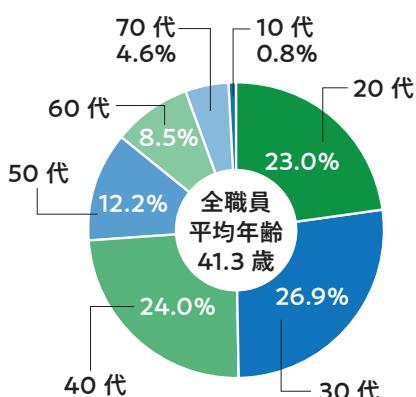
資金収支計算書	
勘定科目	決算額
事業活動による収支	
事業活動収入計 (1)	2,070,377,096
事業活動支出計 (2)	1,805,942,474
(人件費支出) <人件費率 66.2%> ※	1,370,945,993
(その他支出)	434,996,481
事業活動資金収支差額 (3) = (1) - (2)	264,434,622
施設整備等による収支	
施設整備等収入計 (4)	394,208,102
施設整備等支出計 (5)	420,689,084
施設整備等資金収支差額 (6) = (4) - (5)	△ 26,480,982
その他の活動による収支	
その他の活動収入計 (7)	167,057,987
その他の活動支出計 (8)	342,857,331
その他の活動資金収支差額 (9) = (7) - (8)	△ 175,799,344
当期資金収支差額合計 (10) = (3) + (6) + (9)	62,154,296
前期末支払資金残高 (11)	776,007,176
当期末支払資金残高 (10) + (11)	838,161,472

※人件費支出／事業活動収入計による比率

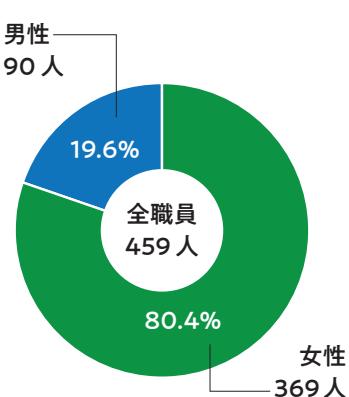
事業活動収支計算書	
勘定科目	決算額
サービス活動増減の部	
サービス活動収益計 (1)	2,031,106,959
サービス活動費用計 (2)	1,875,957,541
サービス活動増減差額 (3) = (1) - (2)	155,149,418
サービス活動外増減の部	
サービス活動外収益計 (4)	39,270,137
サービス活動外費用計 (5)	19,662,397
サービス活動外増減差額 (6) = (4) - (5)	19,607,740
経常増減差額 (7) = (3) + (6)	174,757,158
特別増減の部	
特別収益計 (8)	397,763,817
特別費用計 (9)	432,095,175
特別増減差額 (10) = (8) - (9)	△ 34,331,358
当期活動増減差額 (11) = (7) + (10)	140,425,800
繰越活動増減差額の部	
前期繰越活動増減差額 (12)	1,782,411,685
当期末繰越活動増減差額 (13) = (11) + (12)	1,922,837,485
基本金取崩額 (14)	0
その他積立金取崩額 (15)	1,000,000
その他積立金積立額 (16)	146,000,000
次期繰越活動増減差額	
(17) = (13) + (14) + (15) - (16)	1,777,837,485

職員について

年齢



男女比



職員の国家資格所有者

資格種別	保有人数
社会福祉士	44
介護福祉士	46
精神保健福祉士	16
看護師・准看護師	29
公認心理師	2
管理栄養士	13
言語聴覚士	3
作業療法士	2
理学療法士	1
保育士	184
幼稚園教諭	119

2021年3月31日現在

過去3年間の新卒採用者数

採用者	合計
2020年	13名
2019年	15名
2018年	16名

過去3年間の1年未満の新卒離職者数

離職者	合計
2020年	1名
2019年	1名
2018年	4名

月平均所定外労働時間（前年度実績）



平均有給休暇取得日数（前年度実績）



役員及び管理的地位にある者に占める女性の割合



産休・育休を取りやすい環境で、3人目、4人目を出産される職員も！小学3年生までは時短勤務を可能にしたりと、子育て中のママさん職員も働きやすい環境です。

前年度の育児休業取得対象者数（男女別）

対象者	女性	男性	合計
2019年度	10名	4名	14名

前年度の育児休業取得者数（男女別）

取得者	女性	男性	合計
2019年度	10名	1名	11名

令和2年度実践発表会について

前年度はコロナ禍での発表だったため、ZoomなどICTの活用をして実施しました。助言者の先生方には大阪やスウェーデンから参加していただき、トラブルもなく円滑に情報共有することができました。さらに保護者の方や関係機関の方々にもYouTubeを使って参加していただくことができました。

理事長賞には、全14題の中から「断らない相談支援体制と機関連携の事例」が、審査員賞には「子どもから大人まで 地域の居場所づくり」が選ばれました。クムレの理念である「ともに育ちともに生きる」社会をみんなで実現していくため、実践報告に留まるのではなく、その成果は何だったのか、アウトプットからアウトカムへ、クムレらしさが發揮できた今年の実践発表会でした。

また、この1年で、ICTを活用した活動は実践発表の他にも、就職法人説明会やオンライン研修、SNSを利用した困りごとへの相談対応など、飛躍的に広がりました。今後も法人の生産性向上に向けたICTを活用した取り組みに力を注いでいきます。



データで見る クムレの 利用者について

2707 件

児童家庭支援センターへの
相談件数



36 名

中間的就労

働きづらさを抱える人、直ちに就労することが困難な方にプログラムに沿って基礎能力を養いながら就労に向けた支援や社会参加の機会を提供。



月平均 **300** 名

ひろば栗の家 カフェ

2階で開催しているイベントの後や地域の方、職員も気軽に利用している。クラシスの焼き菓子もあり、ランチ以外にもカフェスペースとして利用されている。

201 名

極楽体操・骨盤ヨガ

高齢者の健康増進や認知症予防のために教室を開催。

443 名

子育ち支援

地域の子育て支援として発達の相談や家庭支援を目的に実施。



45 組 106 名

おひさまひろば・音楽ひろば

親子でおひさまの下で元気いっぱい身体を動かしたり、楽器遊びや表現遊びなどを作りする教室。

水島拠点 **439** 名、倉敷拠点 **328** 名
ボランティア実働人数

48 名

子ども食堂（ひだまりカフェ）

57 名

体験学習

※ 208 名のボランティアや関係者のご協力を得て実施

社会経験が少ない児童や、他者と関係を築くことが苦手な児童を対象に、子ども食堂（ひだまりカフェ）を月に1回開催。

家庭環境や不登校等で体験が乏しい児童等を対象に体験学習を実施。野菜栽培、「柿・みかん狩り」「石鹼・バスボム作り」「氷と塩を使った実験」「収穫した芋を使ったクッキング」など。



110 名

上東商店

地域の小中学生の居場所として子どもたちが来店。上東商店は、小学生と大学生、クラス利用者が一緒に遊べる居場所。



約 **280** 名

にじいろカフェ

「地域の方々がつどい、つながる場所を提供する」を目的に開催（感染対策をしながら7月9月11月の3回実施）。地元店の出店、手作りアクセサリー、オレンジリボン啓発活動など、来場者に出会いと情報を提供。



25 組 50 名

パクパクランチ

保育園の給食を試食しながら、栄養士さんに相談できる講座。



190 世帯

食材や日用品、

絵本の配付



2021年度 事業計画

クムレ中期経営計画 2025 の重点方針

1. 多様な生きるを実現する地域づくり（法人+2拠点= ONE TEAM）

- ①各拠点でありたい姿を目指した取り組みを実現する
- ②Our Business（地域×多職種協働×なんでも相談）でみんなを元気にする

2. わがことまるごとを実現する仲間づくり

- ①地域を支える人財・チームを育成する
- ②多様性・包括性をもった人財マネジメントを推進し、人財を確保する

3. 地域を支え、成長する法人づくり

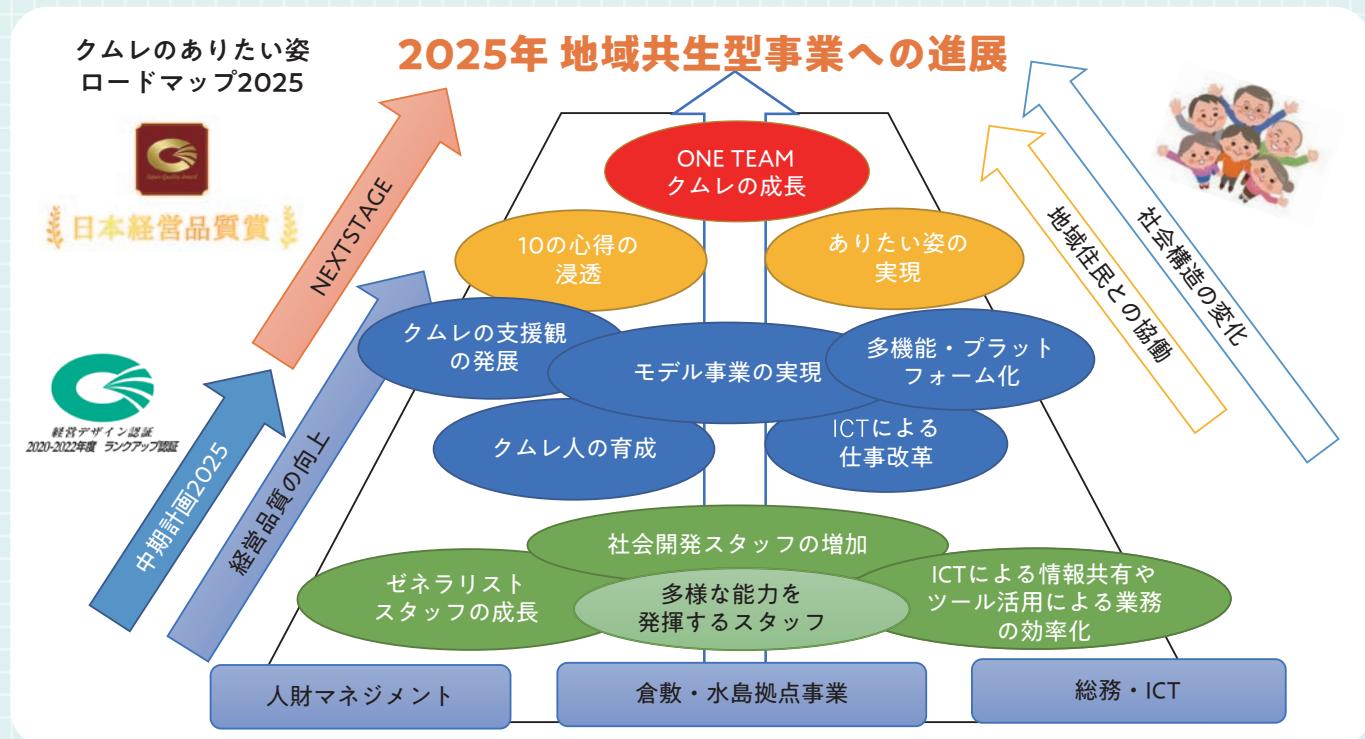
- ①成長と安定を目指し、「見える・わかる・できる」法人経営をする
- ②第三者評価・内部監査を活用し、Business のブラッシュアップをする
- ③ICT (Information and Communication Technology) の活用をする
- ④公益的な取り組み・防災対応の推進をする

2021年度の経営計画

2021年度は、地域共生社会づくりの為に、私たち自身が主体的に地域の一員として地域住民と一緒に活動し、豊かな地域づくりに取り組まなければなりません。昨年認証を受けた日本生産性本部の経営デザイン認証をブラッシュアップし、法人理念の実現にむけて「ONE TEAM」を構築していきます。

今期は以下の重点項目に取り組みます。

- ◎ 地域づくりの参画から ONE TEAM に向けた人財育成
- ◎ 令和4年度 重度グループホームの開設にむけて人財確保の強化
- ◎ これからの働き方改革に対応した人事システムの見直し
- ◎ 法人の生産性向上に向けた ICT を活用した取り組み (ICT ツールの活用・ペーパーレス・会議の効率化)
- ◎ リーダー層の育成と合わせて組織のシステムの見直しや能力の向上
- ◎ 地域を巻き込んだ公益的な取り組みの推進と合わせて防災にも取り組む



令和3年度 倉敷

1. ただ仕事をこなすのでは

令和2年度経営品質ランクアップ認証の取り組みから、今年度の目指す私たちのありたい姿は「居心地のいい地域を地域の人と楽しみながら創る職員集団ができている」です。「cumre one team」に向けて倉敷拠点地域共生型モデルは「多機能型重度グループホーム おうちだ」です。利用者は地域で生活者として暮らし、クムレ職員はクムレの大にしたい支援観「自立（自律）・尊厳・ハビリテーション」に基づいた支援を実

倉敷拠点「居心地のいい地域（人と人との）

CUMRE ONE TEAM 向けて

おうちだ（岡山）

倉敷拠点地域共生モデル
多機能型重度グループホーム



地域の誰もが集い、安心して活躍でき、その人の強みが活かされる居場所が完成。



ワイワイがやがやと「こんなのがあったらいいな」を考えてみる CumCollege。所属や役職を超えて仲間と地域づくりに興味がある職員が集まり、令和2年度0期生が誕生。自分の視野を広げたい職員が真剣に夢を形にしている。令和3年度1期生も6月より開校！



居心地のいい地域を地域の人と楽しみ



拠点事業計画

なく、“志”を持って働く。

践していきます。「おうちだ」以外にも、地域の人たちとともに暮らしをデザインする基地「栗の家」「上東商店」「山手やさい食堂（仮）」の3つがあります。老若男女問わず、障がいがあるなしに関わらず楽しくワクワクする参加の場・働く場・ほっとする場・お互い助け合いの場、いろんな場をみんなで作っていきます。

（↓この図は令和4年3月の成果予想を描いています。）

つなげていく・地域づくり)」**OUR 楽 FE**

ろば栗の家

防災に強い地域づくりを話し合い、支えあいの体制を作っている。健康寿命を延ばす活動の場ができている。



事業所でとても個性的に育ったキュウリと一緒に☆。今年4月から倉敷学園に配属された保育士たち。笑顔がとても素敵な私たちの仲間は子ども達とともにすくすく成長中。

ながらつくる職員集団ができる。

上東商店

子ども達が「まちのじどう家ん」を利用して近所の人達とともにほっとする場で過ごしている。上東バルで防災食缶詰を食し、地域で防災について話し合い支え合いの体制が築けている。



山手やさい食堂



地域の方々と一緒に作った子ども食堂で多世代が交流。





寄り添いいつでも味方になり、不安を安心に変えていく…
そんな安心・安全の提供をします



7. 圧倒的な“安心・安全”を。

「子育ち」は、乳幼児期～児童期の子育て支援を行う事業所が“子どもの育ち”を中心に考え、育ちの為に必要な環境や地域をつくっていこう！と考え集うカテゴリーです。何らかの障がいや発達の遅れがある児童期の個別の発達支援、集団の発達支援等を通して、生活自立に向けて支援を行います。又、企業主導型保育所も併設しており、働きやすい環境を職員や地域に向けて提供しています。

法人の理念“ともに育ち ともに生きる”から、誰もが安心して子育てをすることが出来、子育ても親が自由な選択をしていける社会を作りたい。どんな親子も笑顔がたくさんあふれ地域の中で健やかに育ってほしい。そういった思いから、子どもも大人も一緒に生活する居心地のいい地域共生社会の実現を目指しています。

■ 障がいがあってもなくても ～共に育ちあう社会を実現するために～

乳幼児期は、病気や障がいの有無に関わらず人間形成においてとても大切な時期であります。全ての子どもがより豊かな人間として育み育てていき、共に成長できるようにしていくことが必要であり、その過程では同年代の子どもとの仲間づくり、地域社会の参加なども望まれます。

私たち倉敷拠点の「子育ち」の事業所は、障がいがあってもなくても一人のお子さんの成長の中で遊びや生活の場において大切と思われることに着目した支援を行っています。

美しい音楽を聴いて心地よいと耳や肌で感じる、花や植物を見て生命あるものに触れる感動や愛おしいと思う気持ちを育む、季節の行事や伝統に触れ日本由来の言い伝えやしきたりを知るなど学習では身につかない情操教育も乳幼児期には大切と考えています。事業所を超えて職員が子どもにどのように伝えていくか？何をしていくか？など一緒に考えながら行っています。



6. ハンディキャップのない街へ。



■ 多職種で取り組む子どもの発達支援 ～チームアプローチ～

倉敷拠点の事業所には、作業療法士、言語聴覚士、理学療法士、保健師、管理栄養士、看護師、保育士、社会福祉士など複数の専門職が技術と役割をもとに、共通の目標を設定し、達成を目指して連携しながら支援する取り組みをしています。重症心身障がいや看護師による医療的ケアが必要なお子さんの支援も行います。家庭や園、医療機関等との連携も行き、地域との協働のもと子育てが出来る社会つくりを目指しています。今、多職種連携は必須で、ある職種が特定の役割に限定されるのではなく、複数の職種が重なり合い色々な視点で見ていくことで、より質の高い保育や発達支援が提供され、子どもの育ちにつながります。その中で、利用者やその家族と目標を共有することで、一貫した対応が可能となり本人中心の支援につながり、信頼や安心感につながります。



4. 団結力を身につけよう。



■ 情報のICTを通してつながるひろがる支援

私たち福祉の仕事の中では、情報を共有することが大切と考えています。

クムレでは、つねに先を見据えて、新しいサービスを取り入れています。

現在、情報のやりとりをICT化(通信技術を活用したコミュニケーション)することで情報を見る化、共有化しています。

いつでもどこでもタイムラインでお子さんの様子や情報が分かり、家族や職員などとシェアすることが出来ます。

職員は働きやすく、ケアの質も高まっています。

子どもの育ちを多角的視点から捉えることで、家族と一緒に育て、喜びを共有し、家族支援することで子どもの育ちの安定につなげていきたいと考えています。



2. 変化を恐れない勇気。挑む勇気。



働く

はたらく



やりがいから、お互いの働きがい、
そして生きがいへ！

■ 一人ひとりが豊かな人生を送ることが できるよう支えるためには

クムレ倉敷拠点「働く」カテゴリーは、集う人の幸せを追求すべく、年金収入と合わせて自立した生活を営むのに必要な費用を賄うため、工賃向上（目標3万円）を目標に掲げています。またクラスでの就労が一般的の就労先へ就職することや、それぞれが豊かな人生を送れるよう支援を展開しています。

クラスでは、2020年度平均工賃3万円を達成しました。コロナ禍でありながら過去最高を達成できた要因は利用者・職員を含めた団結力です。環境の変化を楽しみながら、それぞれ得手不得手はあったものの、新たな作業への対応にやりがいをもって取り組みました。素晴らしいチームワークだと誇りに思います。

また、やさしい畠クムレは新しく「花」の事業に取り組みました。初年度ということで不慣れなため生育不良や、納期遅れなどを発生させたものの、新たな仕事を創出することで、利用者が強みを發揮して活躍できる場が増えました。

2021年度も新たな仕事へのチャレンジや、「働く」ことを含めた本人の「生き方」そのものを応援していきたいと思います。



■ 個人やグループで次のステップに向けた 職業指導や生活支援の取り組み

4. あなたの自信が、だれかの安心になる。

自立に向けた仕事・仕組みの創出として、「就労移行のためのアセスメントツール」を活用して、将来を見据えた個人の職業能力（ハーハードスキル）と職業生活遂行能力（ソフトスキル）のアセスメントを実施しています。個別に目標を設定し、その達成に向けて家族とともに取り組んでいます。

■ 地域住民とともに役割を持って その人らしく生きていく地域づくり

みんな丸ごと支えあいができる参加の場づくりとして「ローリングストック上東バル」を企画しています。被災時の支えあいの体制を構築するためには平時からの関係づくりが必要です。2021年度は、まず顔見知りになることから始めるために、地域の方と備蓄品の試食の機会を通じてコミュニケーションを図っていきます。また、クラスのことや障がいについて理解していただく啓発活動にも取り組みます。

■ 誰もが自分らしく元気に 地域で生活できる環境づくり

上東商店は「まちのじどう家ん」として2020年12月オープンし、地域の子どもの居場所として活用されています。また、地域住民の会合の場や打ち合わせの場としても活用されています。山手やさい食堂は、総社市社会福祉協議会と山手地区の方々と一緒に全世代対象型の食堂として2021年11月開催を目指して現在準備を進めています。

■ 「私達のありたい姿～OUR 楽♥FE～」を 実現するために、さらに高みを目指して

5. 圧倒的な“安心・安全”を。

6. この街を、もっと愛そう。

7. 変化を恐れない勇気。挑む勇気。

職業指導員としてさらなるスキルアップを目指し、民間で勉強する予定にしていましたが、コロナの影響で実施を見合わせました。こうした中、社会福祉士や公認心理師の資格取得に向けて勉強する職員や地域の課題＝自分の課題と捉え、「マイプラン」を計画し、地域の方にも協力いただき取り組みました。2021年はさらにコミュニティソーシャルワークの実践に取り組んでいきます。



人の繋がり・地域との繋がり、それが私たちの望む暮らし

6. ハンディキャップのない街へ。そんな「住まい」を目指して

この地域で暮らす、3. この街を、もっと愛そう。の実現に

「多機能型重度グループホーム おうちだ」が担う役割

私たち「暮らす」カテゴリーは、「どんなに重い障がいがあっても自分らしい暮らしをするには?」をテーマに、暮らしについて検討を重ねています。倉敷拠点の地域共生型モデルは多機能型重度グループホームです。私たち職員の視点が利用者を生活者として捉えることは、大きな変化です。クムレには住いの場として「あしたば(入所施設)」と「共同生活援助事業所クムレ(グループホーム)」があります。今まで入所者の生活は施設の中で完結しがちで、集団を基調にした個別といった側面が見受けられました。利用者が地域の中で生活をしていくことを真摯に考えると、従来型の集団からの脱却として「あしたばのユニット化」もクムレの支援としては自然の流れになります。(「あしたばのユニット化」の詳しい内容は昨年度「暮」をご覧ください。)



「多機能型重度グループホーム おうちだ」(以下「おうちだ」)設立に向けて、平成31年2月から、家族や職員でプロジェクトチームを立ち上げ「自由に自分らしく安心して暮らせる楽しい家」を暮らしのコンセプトに話し合いを重ねてきました。現在は地域住民や大学生の意見も取り入れながら「人が集まる場」を目指して現在進行形で進めています。

重度の障がいのある方の「自立(自律)・尊厳・ハビリテーション」とは何だろう?重い障害があっても、一人ひとりが人生の主人公としてその人らしい人生を過ごすことができることであり、人と人がつながりあう場があり、様々なことにチャレンジし自己選択ができる機会がある。その繋がり(チャンス)と住まいの場を、「暮らす」カテゴリーの今年度の事業計画の主軸に置いて、事業を進めていきます。

本人の将来への家族の心構えとして、2. 変化を恐れない勇気。挑む勇気。 自立に向けて

昨年度、「放課後等デイサービスコトノハ」が成人期に向けてのペアトレ・茶話会を『働く(就労)』『住まい(グループホーム)』をテーマに行いました。家族の関心も深く、先輩ママさんや事業所管理者から話を聞く機会がありました。「今年度も開催します、参加してください!」。



そして、今年度「おうちだ」の説明会には、成人期の家族だけでなく幼児期、児童期、青年期の子を持つ多くの家族が関心を抱いて参加されました。今年は「おうちだ」を通して、「住まい」だけではなく、重い障がいのある方の「働く(収入を得る)」にも、焦点を当てて「働くカテゴリー」と共に事業展開に向けて取り組んでいきます。

「事業所完結型」から「チームアプローチ」へ

4. 団結力を身につけよう。を実践の場へ



倉敷拠点は、チームアプローチで利用者支援に取り組んでいます。それは、人は生を受けて命を全うしていく過程で、実際に様々なできごとを経験するからです。倉敷拠点は幼児から高齢者の「生きる」を支える事業所があり、事業所を超えてアドバイスをしあいながら切磋琢磨し、一緒に実践を行ふこともあり、利用者も職員も様々な体験や学びができます。

これからもひとつの事業所で完結するのではなく、事業所の特色・長所をお互いに活かしつつ、補いながら充実した経験が提供できる体制を図ります。

私たちのありたい姿～OUR 楽^ら^い^ふ FE～】

私たち職員は 1. ただ仕事をこなすのではなく、“志”を持って働こう。

私たち職員は「クムレ10の心得」をクレドとして、日々の仕事に当たっています。職員が仕事にやりがいや意味を持つことで、利用者や地域にも良い影響があります。私たちの視野は、「施設の中での支援・病気や障害・特性」から「地域に暮らす生活者」として広がっています。この施設から地域に向けての支援は、経験学習モデルを活用し利用者が地域がどのように変わっていくのか職員で学びの場を持ちました。私たちが10の心得の実践者として実践を積み重ね、仕事(実践)の先に、利用者や地域の幸せに満ちた暮らしやその変化の面白さや楽しさが実感できる体制を図っていきます。

※「クムレ10の心得」は昨年度の「クムレレポート2ページ」参照

つなぐ



8. 有言実行という、あたり前。

だれもが一緒に暮らせるような社会をつくりたい



まちのじどう家ん ～上東商店～

令和2年4月から地域交流スペースとして開所した上東商店。コロナ禍でのオープンで大々的な広報ができなかつたにも関わらず、地域の方の利用から徐々に口コミで広がり、民生委員、愛育委員、スクールソーシャルワーカーなど様々な方の集まりの場になっていきました。さらに、近隣の小学生が放課後に立ち寄ってくれるようになり、コロナ禍での急な長期休みには無料の駄菓子を配布するなど子どもたちが安心して楽しく過ごせる居場所になるような工夫もし、令和2年12月からは「まちのじどう家ん 上東商店」としてリニューアルしました。春休みには毎日のように遊びにきて「一緒にかくれんぼしよう！」と子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごす日々でした。ボランティアの大学生さんも参加してくださいり、地域全体で子どもたちを見守る取り組みが少しずつ進んでいます。



ないものは創ろう ～訪問カットしの～



5. あなたの自信が、だれかの安心になる。

「自分も誰かの役に立ちたい。でも、どうしたらいいか分からない」。プロの美容師として23年間勤務されていた佐々木さんと出会い、「やりたいなら、やってみましょう！」の一言から「訪問カットしの」を立ち上げることになりました。訪問カットとは、高齢や病気、ケガ、障がいなどの理由により、外出が難しい方のご自宅や施設まで出張訪問し、髪をカットしてもらえるとても便利なサービスです。

クムレは、広報活動と場所を提供し（ひろば栗の家、上東商店）、佐々木さんは「プロの技」を提供し、お互いの強みが繋がって「訪問カットしの」という社会資源を生み出すことが出来ました。障がいのある未就学のお子さんから成人の方まで幅広く対応してくださいり、地域に一歩踏み出す勇気をもらえる貴重な場所になっています。

（問合せ：地域公益活動推進センター 086-441-5601）



「普及啓発？何を伝えたいか？」 それは自分にしかわからない



6. ハンディキャップのない街へ。

発達障害者支援法が制定され、知的障害があっても多かれ少なかれ存在する「発達特性」の存在とその理解が叫ばれるようになりました。

令和元年から発行スタートした季刊誌『凸凹お便り』。

皆さんの「得意」を提供いただくにつれ、いつしかその発行に携わる当事者の方々の活躍の輪が広がっています。イラスト挿絵・エピソード提供・校正・配送作業・・・

編集部会議は、あえて素性は明かさずオンラインで音声・画像のみで行います（聞くだけもOK）。目的は発行・編集ですが、会議を通して自分だけだと思っていた悩みが実は共通するものであったり、他の人の感じ方や価値観の違いを知り「面白い」と認め合う場にもなっています。



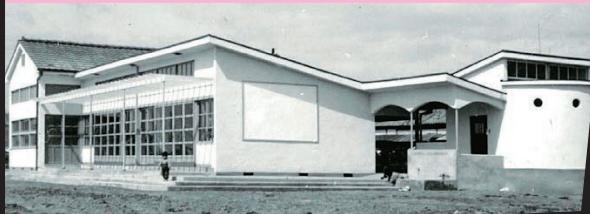
令和3年度 水島拠点事業計画

法人発祥の地の水島において、その先人たちの思いを胸に——この街を、もっと愛そう！



社会福祉法人クムレの設立のきっかけは、倉敷市の水島において、第二次世界大戦後、働き盛りの夫を亡くし、脳性麻痺の娘を抱えた母親との出会いが原点で、そのような親子を支えるために、保育園設立に向かって、

資金面や環境面において、地域の協力を得ながらあたり前のように有言実行してきた先人たちの想いでした。



水島拠点は、発祥の小さくら保育園を中心に、主に子育て支援の事業を展開してきました。夜間保育に障がい児支援、地域子育て支援に児童家庭支援といった相談支援、母子支援や居住・就労支援。それらを培ってきた専門性と信頼のブランド力で、時代のニーズを先取りしながら、**変化を恐れず**、切れ目のない支援体制を構築しています。制度の狭間や複雑化・複合化する課題の解決に向けて生活課題をカテゴリー化し、カテゴリーを横断しながら**団結**して支え合う体制づくりを行い、地域住民のみなさんや関係機関と一緒にになって取り組める環境が、私たちの強みです。



現在、総人口約9万人の水島エリアにおいても、少子高齢化や核家族化などによる家庭環境の変化、地域のコミュニティの衰退、先行き不透明な経済状況や社会情勢、新型コロナウイルス感染症の拡大や大規模化・多発化する自然災害など、多くの課題や脅威に私たちの生活が脅かされています。



そのような課題を解決し、私たちの地域のありたい姿——

“笑顔で子育てできる=みんなが笑顔になれる地域づくり”

< Our Smile 😊 >を目指して

子どもと家族の
生きる力を
育みます

安心

情報発信を通じた
ネットワークづくりを
行います



信頼

地域住民とともに、
地域力向上に
取り組みます

関わる人すべてが
自己実現できる
場にします

地域のみなさんと“ともに”取り組みます！

今年度の水島拠点の
2つの重点課題が
こちら！



「ひろばにじいろ」は、プラットフォーム型の地域の居場所で、子育てに関する相談支援や親子の交流、サロン活動や地域住民の交流・活躍の場として一般開放されています。お気軽にお立ち寄りください！

MIZUSHIMA Our Smile ☺ Plan

誰もが自分らしく、誰もが輝ける社会・まちづくりが私たちの仕事です。

1. 家族の自立を支える

ひとり親、特に母子家庭においては、経済的・社会的貧困が大きな社会課題になっています。それらは、経験不足や学力の低下などにより子ども達の発達を阻害し、家庭内ではDVや虐待といった事態を招き、貧困の連鎖に陥りかねません。コロナ禍の影響でより深刻化している現状があり、急務の課題となっています。



夜間保育の機能を持つ小さくら第二保育園がある連島エリアをベースに、子どもが心身ともに健やかに成長できるよう、諸問題を抱えた家族への支援と自立を支えるネットワークづくりを行います。また、緊急性の高いケースや虐待防止や予防の観点から、短期間の居場所を提供したり、生活に必要な物資の提供をしたり、居住や就労の支援をしたりするなど、自立に向けて生活を立て直すことができる体制を構築し、エリアで多機能化していきます。



そうすることで、笑顔で安心して生活できる家庭が増え、負の連鎖を断ち切ることができ、社会の力、地域の力が向上します。

2. プロ集団としての志

私たちは長年、障がい児・者支援に取り組んできました。時代の流れにより、多種多様な業態の福祉支援サービスが増えており、私たちの専門性や社会福祉法人としてできることを考えたとき、やはり、より重度であったり、より困難性が高かったりする支援にチャレンジし、どんなに重い障がいがあっても、その人らしく生きることができる「ハンディキャップのないまちづくり」を行わなければならないと考えます。それは、法人設立時の思いを引き継ぐ者としての責務で、クムレとしての誇りです。



児童発達支援センタークムレから医療的ケアに取り組み、医療系の職種やセラピスト等とともに、重度心身障がい児に対する支援体制を強化します。また、障がいの有無にかかわらず、「子育ち」の視点から、子どもの年齢発達にふさわしい支援を実践します。そのため、ICTを活用した情報の共有や自立に向けた課題抽出を行います。そして、就学後の支援と18歳以降の移行期支援（居場所）に取り組みます。



そうすることで、誰もが住み慣れた地域で生活を続けることができるようになり、生活の質が向上します。そして、身に着けた自信を他のエリアの安心へ——。

以上、2つの重点課題は、それぞれ単独で考えるのではなく、トータルで支援していく体制を拠点全体で考えていきます。

そして、私たちには心強い仲間と「圧倒的な安心・安全」の礎となるツールが数多くあります。

地域住民

倫理綱領

小さくらのみちすじ

10の心得

第三者評価

内部監査

関係機関

研修制度

経営品質
マネジメント

外部監査

私たちも地域住民の一員です。
地域とともに考え、地域とともに

誠実に活動していきます！
みんなの笑顔が見たいから！

Our Smile !!



私たちが大切にしている支援は「自立」「尊厳」「ハビリテーション」です。個人の思い・願いを大切にしながら、本人のできることを活かし、できないところは助けを借りながらでも、やりたいこと・なりたい自分になれるよう支援します。

私たちの水島拠点は「子ども子育て総合拠点」として、様々な環境にある親子の愛着形成を支え、水島の地域で生まれて育っていく子ども達の健やかな成長を支えていきたいと考えています。

生まれる前から母親に寄り添い、安心して出産、育児ができるようサポートをして「子育てが楽しい」と思えるような切れ目のない子育て支援をしています。子どもの主体性と豊かに生きる力を育むため、乳幼児期から学齢期に沿い、つながりのある一貫した丁寧な保育の実践や、地域の保護者や子どもにも居心地の良い“場”作りをすることで「みんなが笑顔で子育てできる」地域づくりを目指しています。



様々な環境にある親子の愛着形成を支え、年齢発達にふさわしい丁寧な子育ち支援をします

「育」のカテゴリーでは、保健師と連携し、妊娠期（生まれる前）からの切れ目のない支援を行っています。住み慣れた地域で安心して子育てが出来るよう、ニーズに応じた情報を発信したり、親子の困りどころに寄り添ったりして、母親の子育て力アップの取り組みを実施しています。また、ゆるやかな育児担当制を取り入れ、愛着形成を基盤とした一人ひとりを大切にした丁寧な子育ち支援に取り組んでいます。“みんなが笑顔”で楽しく😊を合言葉に、職員も常に学ぶ姿勢を大切にし、関係機関や地域住民と支え合いながら、誰もが自分らしく生き生きと生活出来る地域共生社会の実現を目指しています。

■ 生まれる前からの切れ目のない支援 ~気軽に立ち寄れるほっとできる場の提供~

育児の事、発達の事など職員が話を聞いたり、一緒に考えたり、母親同士の繋がりを支えたり、「ひろばにじいろ」は誰もが気軽に立ち寄り、ほっと出来る、そんな場所です。地域の期待に応える、笑顔あふれる場所を目指します。



♣ プレママデー

出産前の不安が少しでも安心や、楽しみになるように！と開催しています。沐浴体験や、赤ちゃんへ贈るメッセージカード作りが人気です。

■ 一人ひとりを大切にした丁寧な子育て支援の定着 ~職員のやりがい、楽しい!!を支援に繋げる~

職員も楽しく笑顔で!!

得意な事を發揮したり、楽しい事を皆で考えたり、子どもの発達に関して更に知識を深めたり、職員同士の学び合いの取り組みとして、事業所を越えてのグループ活動として取り組みます。保護者も参加したり、SNSを使って配信したりする内容も考えています。



♣ わらべうたグループ主催の研修



五感を通して心と身体の育ちをはぐくむ子育ち支援をします

「遊」のカテゴリーでは、乳児期にはぐくんだ心の育ちを土台にし、「育」「遊」「学」カテゴリーのつながりを大切にしながら、0歳児から5歳児までの一体的な保育の実践をし小学校就学へとつないでいます。子どもがやってみたいと思えるような体験の場を作り、自分で考えたり友達や先生と一緒に工夫したりして「楽しかった」「またしたい」と思えるような遊びの提供を目指しています。



まだ皮があるよ!?
どこまでむくの?



食育の時間にたけのこの皮むきをしました。保育教諭からはたけのこの成長する様子を、栄養士からは切り方で形が違うことや様々な料理を教えてもらいました。たくさんの皮をむいて厨房へ…。おいしいたけのこご飯になりました。

「たけのこって、どんな形だったかな?」と思い出しながら描いてみました。

子ども達は色や形をよく覚えていました。



よいしょ
よいしょ
重たいなあ



階段
気をつけてね



給食の先生へ
おいしいごはんに
なりますように 😊
おねがいします



学齢期の“地域支援”や“居場所づくり”を推進します！



幼児期→学齢期の就学支援

利用終了児のアフター支援

困りごと等相談の対応

「学」カテゴリーでは、水島地区を中心とした学齢期のお子さんを地域でサポートしたり、地域の中での居場所や地域の機関との連携を図ったりしています。

学校訪問・学校での
発達支援



学童保育や地域での
居場所づくり



■ キッズボランティアが大活躍♪ ~アフター支援・居場所のひとつとして~

きらり水島では、終了児の小学生もクムレいきポイントに登録し、自分の得意なこと（制作準備、窓ふき、草抜き…）や、やってみたいこと（事務作業、本や玩具の修繕、…何でも！）を選択し→取り組み→振り返りながら定期的にボランティアに来てくれる子どもが増えています♪子どもや保護者の方と近況について話す機会にもなり、ご相談から新たなサポートに繋がるケースもあります。

利用児との交流もあり、先輩として遊びをリードしたり、お話してくれたり頼りになります！



花を植えて玄関に飾ったよ

ボランティア
やってみる??

「ボランティア」は、「ひとのため やくにたらしいな」と おもって
おつづいたを することよし。じいんから「やってみたい」と きもちがいい!

いつできるの?
げつよつひーどようび、1かわうじのべくない
あおらのひとに おこってもらえるひに きてね。

どこですか?
「きらり」だけではなく、「まいまえ」や「センター」でも
おいでついでできるよ。

なにをするの?
みすぢや、くろさき、そうち、カードづくり、せいかくのじゅんび
ほかに もやうだい、おてつだいがめれば、そうだんしてね。

がんばったら
ボランティアを はじめて、おもしろい やさしい こなかいしよう!
※ボイントカードは、3つまでためて、4~5歳に
ショウムンに こうんできるよ!

までは、「くみらい地図ボイント」ボランティアの もうしこみをしてね。
なまや、やりたいおでこぼく(おこごこ)を おうちのひとに きめなに かいでらうよ。

私たちは、地域で生活する子ども達が、一人ひとりの個性や強みを發揮し、周囲に認められながらその子らしく過ごしていくためのサポートをしていきます！

2021年度の水島拠点の「暮（くらす）」「繋（つなぐ）」「支（ささえる）」カテゴリーは、水島という地域で暮らしているすべての人が、何らかの課題に直面したときに、また、孤独や孤立を防ぐために、人と人との繋ぐことで、みんなが笑顔になれる支え合いの地域づくり・まちづくりを一体となって実践していきます。変化が激しく、将来の予測が困難なこの時代において、複雑化・複合化する課題に対し、多職種や多機関と連携しながら、知識や技術、資源や情報を共有し、カテゴリーの枠を超えて支え合っていきます。



子育て家庭の自立を支え、親子が安心して暮らせる 土台作りを地域でサポートします。

「暮」カテゴリーではひとりで子育てに奔走しているひとり親が地域から孤立してしまわないよう、当事者、地域住民、関係機関が一体となって、必要な支援がひとり親家庭に届く仕組みづくりと新たな資源創設のためのネットワークづくりを行っています。

ひとり親の経済的負担の軽減や子どもの体験活動の機会を通して、育つ環境に関わらず、子どもが心身ともに健やかに成長できるように応援します。また、ひとり親家庭の生活基盤を整えるため、就労訓練事業（中間的就労）の認定を受けた各事業所での就労やハローワークとの連携による就労支援、居住支援法人の指定を受けて賃貸住宅入居を支援しています。

更にひとり親家庭だけではなく、何らかの事情がある親子が緊急的にショートステイできる部屋を整え、すぐに対応できるようにしています。

■ カンガルーカフェ【ひとり親交流会】

当事者同士の支え合いを目指し、子どもの体験活動の場に親子で参加できる機会をつくり、当事者同士が交流できる活動を行っています。子育ての頑張りや大変さを共有し合い、今後も地域の中で支え合える仲間づくりを目指します。



■ パントリー【学用品・部活用品おゆずり会】

住民同士の支え合いを目指し、地域の方からゆずつていただいた学用品、部活用品。必要なものが必要な人に届き経済的負担の軽減や、子どもに物を大切にする感性を育むことも大切にした活動です。



■ 研修会の開催

地域の支援者、地域住民、関係機関（行政）等とともに学び、必要な支援や取り組みなどの話し合いの場を通して、将来的にはともに必要なモデルをつくることも目指し、ひとり親家庭に向けて地域でできることを考えていきます。



支援、地域の繋がりで「みんなの安心」を守りたい

「繋」カテゴリーでは、法人内外の多機関多職種が本人支援、家族支援、地域支援を意識しての当事者へ関わる事の出来る共通認識から、水島地域での年齢や内容に関わらず、断らない相談を実現させるための全世代型の地域包括支援体制構築を目的に、子ども何でも相談センター、外部事例検討会、法人内拠点ケア会議を実施しています。

■ 子ども何でも相談センター～子どもの相談から家族相談まで～

クムレ子ども何でも相談センターでは、クムレ水島拠点の強みを活かし、妊娠期～乳児期～幼児期～学齢期における子どもに関する疑問や困りごとを“なんでも”一緒に考えさせていただきます。併せて、一緒に暮らす家族の事もご心配なことは“なんでも”お聞かせください。年齢を問わず、様々な機関と日々連携を取っているので、必要な機関・支援へお繋ぎします。

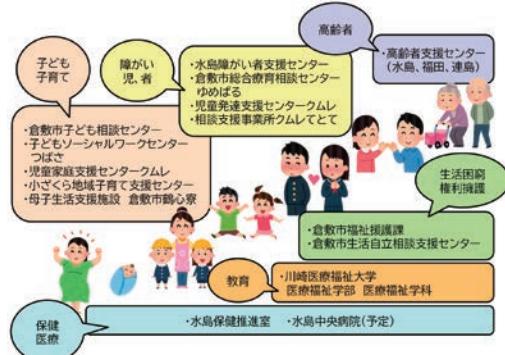
子ども何でも相談センター	
電話番号	086-441-1960
相談受付	月曜～土曜 9:00～17:00

■ 外部事例検討会～水島地区における全世代型の相談支援体制の実現～

相談できる場所って、大体年齢や相談内容で相談先が違いますよね。“これってどこに相談すればいいんだろう？”を解消するために、水島地区に関係する相談機関の連携体制構築を目指します。

子ども、子育て、障がい児・者、高齢者、権利擁護、生活困窮、保健・医療、教育など様々な機関が事例を通して、お互いの出来ることを理解し、相談に来られた方が安心できるように必要な相談や支援を必要な方へ確実に繋げる事の出来る地域を作るために実施しています。

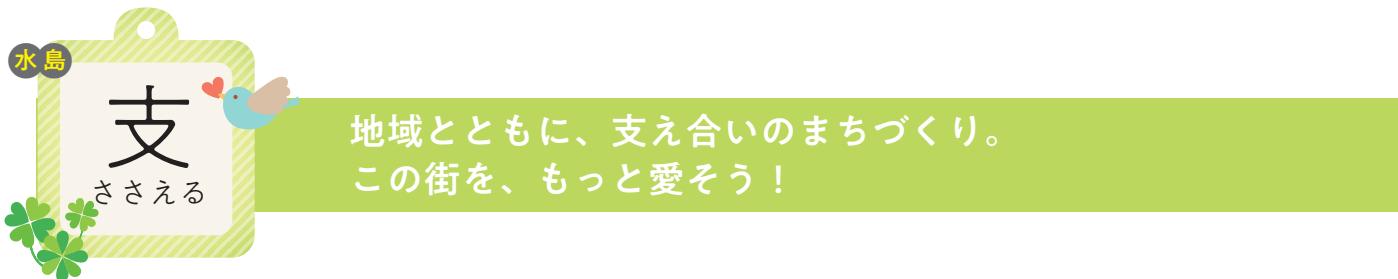
その他、コロナ禍における各機関の現状なども情報交換し、“私たちが協力して何か出来ないか”も考えています。



■ 法人内拠点内ケア会議～日々の関わりから“困るかも”に気づき、“安心”に繋げるために～

“困った”になる前の“困るかも”的段階で気付き、必要な対策を取ることが出来れば圧倒的な“安心・安全”に繋がります。

相談支援を行っている職員だけでなく、日々直接関わっている先生なども本人だけでなく“家族全体”が関わる対象として意識を持てるよう、家族支援に必要な視点をもつこと、各保育園や事業所の“ちょっと気になる”を共有することで、“困った”になる前の“困るかも”的な予防的関わりが出来るよう日々研鑽していく機会も設けています。



近年の経済格差やテクノロジーの進歩など、社会の変化は目まぐるしいものでしたが、新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちの生活をさらに一変させました。これまでの常識も通用しないこの時代。これまで「福祉」とは無縁と思っていた人たちも、「福祉」がより身近に感じることが多くなったのではないでしょうか。「ふくし」とは障がい者のためでも、高齢者のためでもなく、何ら特別なことではない「ふうつの くらしの しあわせ」。生活をしていく上で出てくる小さな「困った」から大きな課題まで、みんなで支え合って解決していく。そして、誰一人取りこぼさないよう、できる人ができることから。「支」カテゴリーでは、様々な場を通して、そのようなまちづくりを地域の皆さんと一緒に考え、取り組んでいきます。

■ にじいろカフェ～地域の人々が集い、繋がり、活躍する場～

ひろばにじいろで開催してきた「にじいろカフェ」を、今年度は拠点内の各地域において開催します。昨年度、新型コロナウイルスの影響で開催を見送っていたにじいろカフェを数ヵ月ぶりに再開した際に、来場された地域の方から「待ったんだよ！」と、ありがたい言葉をいただき、人と人との繋がりの大切さを改めて感じました。その思いをより広いエリアで展開していきます。にじいろカフェは、地域の方々が主人公となって活躍する場です。運営や出店など、協力していただける方を募集しています！

7月16日(金) @ひろばにじいろ
9月17日(金) @小さくら第二保育園(連島町鶴新田)
11月14日(日) @水島朝市 with フリーマーケット(水島愛いサロン芝生広場)
3月18日(金) @老松ふれあい会館

※開催の有無や時間帯、ボランティアの募集などは、ひろばにじいろのフェイスブックやインスタグラムをチェックしてください。



■ にじいろ図書カー～地域の子ども達、保護者の困りごとや声に耳を傾ける場～

子ども達の声をしっかり聞けているのだろうか…。核家族化や共働き、隣近所との繋がりが弱くなることで、子ども達が経験する環境、学ぶ環境、リラックスする場が少なくなっています。「にじいろ図書カー」は、そのような疑問や問題から生まれた移動型の図書館(居場所)で、イメージは昔の「紙芝居屋さん」。子ども達が喜ぶ漫画を中心に300冊以上そろえており、古書店で廃棄される予定であったものや、地域の方から譲っていただいたもので、再び本としての光を浴び、活躍の場を取り戻したものです。地域に出向き、子ども達が集まって漫画を読んだり、駄菓子を食べたり、話をしたりする中から、子ども達の困りごとに耳を傾け、さらにはそこから保護者の方と繋がり、地域の課題やニーズを把握し、支え合いに繋げていきます。



公園や学校、学童保育、子ども会など、地域に出向いて行きます！また、児童書や漫画など、まだまだ集めています！子ども達と一緒に関わってくれる方も募集しています！ 詳しくは、ひろばにじいろへお問い合わせください。

クムレの公益的な取り組み

地域との交流活動 及び美化活動

障がいへの理解促進、ボランティアの養成、地域交流のために利用者とともに清掃活動に参加。

また、地域の小中学校の花壇のお世話をすることで、利用者が地域の方と交流する機会が増えている。



ひとり親支援連絡会

何らかの課題を抱えるひとり親家庭が孤立せず、安心して地域で生活できるように、地域住民、外部の支援者と共にひとり親家庭支援連絡協議会立ち上げを目指した取り組みを実施。



地域子育て支援



地域の子育て支援として、健診後のフォローとして「クムレにこにこ教室」を開催し、発達相談、発達支援や地域の関係機関へのつなぎなどを行っている。

また、地域支援（地域で悩みのある子どもの見守り、気軽に相談できる場、福祉サービス外で困っている方と繋がる場の提供）や在園児や卒園児の家庭支援を目的に、同じ悩みを持つ保護者同士の交流や、職員に気軽に相談できる教室を実施している。

地域住民の 居場所づくり事業

水島拠点における地域の居場所づくりとして、移動型の居場所整備を目指し、軽自動車を活用した移動図書館（にじいろ図書カー）を整備。また、小さくら第二保育園園舎2階の交流スペース等も活用するため、環境を整えた。



地域交流・啓蒙活動

クラス2階に「まちかどじむクラス」として健康維持・増進のため、ルームランナーやエアロバイク、卓球台、血圧計を設置。また、「オレンジカフェ」の開催は、地域のお年寄りの交流の場、リフレッシュの場になっている。



子ども食堂 (ひだまりカフェ)



社会経験が少ない児童や、他者と関係を築くことが苦手な児童を対象に、食を通して地域の方や学生ボランティア等と関わることで、他者と関わることの楽しさや自信に繋がっていくことを目的として月に1回開催した。

地域づくりに参加しませんか？

社会福祉法人クムレでは、地域共生型モデルとして令和4年4月にオープンする多機能型重度グループホームをはじめ、生活困窮者支援・居住支援や、既存の制度に当たはまらない相談者の困りごとなど、地域課題の解決にも取り組み、地域を元気にする様々な事業を展開しています。

障がいの有無に関わらず、地域に暮らす人たちが、その人らしく元気に笑顔で生活できる地域づくりを目指しています。ボランティアや協賛金など、ご自分に合った方法で私たちと一緒に地域づくりをしませんか？

後援会

クムレの後援会は、クムレの理念にご賛同される多くの方々で運営されています。「ともに育ちともに生きる」社会の実現へ向けて、人々から信頼され、地域に必要とされる組織となるよう励んでいます。新たな福祉課題に取り組む支援活動にご理解をいただき、多くの方のご入会を心よりお待ちしております。

目的

この会は、社会福祉法人クムレが基本理念である『「ともに育ちともに生きる」に基づき、基本方針を守り地域づくりに貢献する。時代の変遷にともなう地域の福祉ニーズに対して積極的に開拓者として取り組む。誰でも、いつでも安心して利用できる福祉サービスの提供とその質の向上を目指す。』を実践するための支援を行うことを目的としています。

事業及び活動

この会は、目的達成のため次の事業及び活動を行うものとします。

- (1) 保育・障害各事業所の事業活動の充実に関する支援
- (2) 地域福祉の向上に関する支援
- (3) 先駆的な施設・設備の整備の充実に関する支援
- (4) 広報活動の支援
- (5) 地域公益活動の支援
- (6) その他本会の目的を達成するために必要と認める事業



年会費

一般会員（個人）年会費 1,000円

一般会員（法人）年会費 10,000円

賛助会員（法人）年会費 20,000円



クムレの事業所内で、子どもたちや地域の方と関わってくださったり、施設の清掃や環境整備などをしてくれるボランティアを募集中です！特技や好きなことを生かしながら、地域とのふれあいの中でいきいき過ごしませんか？

年齢を問わず、クムレの事業所内でボランティア活動をしてくださった方に、1時間で100ポイント（1日上限200ポイント）がたまります。たまたまポイントをクムレ商品（焼菓子・野菜・洗車チケット・雑貨等）と交換できる「クムレいきいきポイント」制度があります。

クムレ後援会に入会希望の方
または、クムレいきいきボランティアに
ご登録希望の方は
右記までお問合わせください。

社会福祉法人クムレ事務局内

〒701-0113 倉敷市栗坂8

T E L : 086-464-0007

E-mail : info@cumre.or.jp



法人沿革

1955 年 4月	小さくら保育園 開園
1956 年 3月	社会福祉法人光明会設立
1974 年 10月	小さくら夜間保育園 開園
1975 年 4月	小さくら保育園移転 小さくら乳児保育園 開園 (現在地の同一敷地内に 4 施設移転) 小さくら園 (心身障がい児通園事業) 開園
	小さくら夜間保育園移転
1978 年 4月	倉敷学園 開園
1981 年 10月	小さくら夜間保育園 厚生省認可第一号
1990 年 10月	小さくら地域保育センター 開設 (現 小さくら地域子育て支援センター)
1993 年 4月	あしたば 開設 (現 障がい者支援施設あしたば)
2000 年 10月	知的障がい者グループホーム 上東ホーム 開設 (現 共同生活援助 クムレ上東)
2001 年 4月	倉敷地域生活支援センター 開設 (現 倉敷地域生活支援センター)
2004 年 4月	障がい児デイサービス事業所 T・L・S・C きらり倉敷 開設 (現 児童発達支援事業所 きらり倉敷)
2004 年 8月	障がい児デイサービス事業所 T・L・S・C きらり児島 開設 (現 児童発達支援事業所 きらり児島)
2004 年 8月	ケアホーム 上東さくらホーム 開設 (現 共同生活援助 クムレ上東さくら)
2005 年 4月	ケアホーム 上東かえでホーム 開設 (現 共同生活援助 クムレ上東かえで)
2006 年 4月	指定管理者制度により 倉敷市鶴心寮 を受託
2007 年 4月	生活介護事業所コトノハ 開設
2007 年 10月	倉敷発達障がい者支援センター 開設
2008 年 1月	障がい児デイサービス事業所 T・L・S・C きらり玉島 開設 (現 児童発達支援事業所 きらり玉島)
2008 年 4月	就労継続支援B型デイセンターあしたば 開設 (現 就労継続支援 B型クラシス)
2009 年 3月	知的障がい児通園施設 倉敷学園 移転 (現 児童発達支援センター 倉敷学園)
2009 年 4月	児童発達支援事業所 きらり中庄 開設
2010 年 4月	社会福祉法人クムレに法人名変更 児童家庭支援センター クムレ 開設 居宅介護事業所 なないろ 開設
2010 年 9月	児童発達支援事業所 きらり水島 開設
2011 年 11月	居宅介護支援事業所 クムレ 開設
2012 年 4月	訪問介護事業所 なないろ 開設 クムレとて 開設
2012 年 6月	通所介護事業所 クムレ 開設
2012 年 12月	居宅介護支援事業所 クムレ庄新町 開設
2013 年 4月	共同生活援助・介護事業所クムレ 栗坂 開設 (現 共同生活援助事業所 クムレ 栗坂)
2013 年 6月	児童発達支援センター クムレ 開設
2013 年 11月	就労継続支援B型 やさい畑クムレ 開設
2015 年 4月	小さくら保育園 幼保連携型認定こども園に移行 ひろばにじいろ 開設
2015 年 12月	ひろば栗の家(おうち) 開設
2016 年 4月	小さくら小規模保育園 開設
2017 年 1月	放課後等デイサービスなないろ 開設
2017 年 3月	通所介護支援事業所クムレ 廃止 居宅介護支援事業所クムレ クムレ庄新町 廃止
2017 年 4月	生活介護事業所 わきあいあい 開設 児童発達支援事業所 きらり児島 移転 放課後等デイサービス コトノハ (旧放課後等デイサービスなないろ) に名称変更
2017 年 6月	居宅介護事業所 なないろ 移転
2018 年 4月	DV 被害者等相談・自立支援充実事業 受託
2018 年 7月	住居確保要配慮者居住支援法人 指定
2019 年 2月	児童発達支援センター 倉敷学園 相談事業所 開設
2019 年 8月	企業主導型保育所 くりのおうち保育園 開園
2020 年 4月	小さくら第二保育園 (旧小さくら夜間保育園) に名称変更・移転 (連島町鶴新田)
2020 年 11月	小さくら乳児保育園 改築
2021 年 4月	さくらんぼ小規模保育園 開園

*事業所名は現在の名称



法人 HP



facebook



Instagram



クムレレポート

発行日 2021年7月1日

発行人 財前 民男

社会福祉法人クムレ

〒701-0113 岡山県倉敷市栗坂 8

TEL.086-464-0007 / FAX.086-464-0072

HP <https://cumre.or.jp>